



令和6年産（5年播種）

# 麦類の生育概況 vol.5



埼玉県マスコット  
「コバトン」

（令和6年4月4日現在）  
埼玉県農業技術研究センター

## 要 約

- ◎気象概況：3月の平均気温は高い時期、低い時期が交互に出現し、月平均では平年並であった。降水量は1mm以上の降雨のあった日が9日と多く、月合計でもかなり多かった。
- ◎生育状況：2月の高温で進んでいた生育はやや停滞気味となっている。ビール麦の出穂が始まった3月中旬以降、麦の耐寒性が低下している状況で、最低気温4℃以下の日が発現し、凍霜害の危険性が高まっている。降雨により追肥作業が行えず、葉色が低下しているほ場も見られる。
- ◎今後取るべき技術対策
  - ・追肥：葉色が低下している場合は、麦種、品種と生育に合わせた追肥を実施する。
  - ・排水対策：排水機能を保つよう明きょと排水溝の点検・補修を行う。
  - ・雑草防除：カラスノエンドウ、カラスムギなど、収穫物に種子が混入する恐れのある雑草は確実な除草を行う。
  - ・病虫害防除：麦の生育に合わせた赤かび病防除計画をたて適期に防除を行う。

## 1 気象の概況

3月の平均気温は、第2、5半旬が低く、第4、6半旬が高く、月合計では平年並であった。降水量は、第1、3半旬が多く、第6半旬がかなり多く、月合計では平年比189%であった。日照時間は、第1、第3半旬が多く、月合計では平年比113%であった。

## 2 生育の概況

### （1）センター内生育相

ア 小麦（さとのそら：11月24日播種）

2月までの生育が進んでいたことにより、草丈、莖数、葉位は平年を上回って推移していたが、第2、5半旬の低温により停滞気味となり、3月25日調査時点で草丈は平年比（暖冬であった過去3か年平均）101%となった。莖数は平年比124%であるが、弱小莖の夭折により緩やかに減少している。主稈総葉数は0.5～1枚程度多くなる見込みである。莖立期は平年と同日であった。

イ 大麦（彩の星：11月24日播種）

小麦同様、草丈、莖数、葉位は平年を上回って推移していたが、第2、5半旬

の低温により停滞気味となり、3月25日調査時点で草丈は平年比91%となった。莖立期は平年より6日早かったものの、出穂始は平年より5日遅くなった。主稈総葉数は0.5枚程度多くなる見込みである。

## (2) 県内全般

二条大麦では3月10日頃から出穂が始まった。2月までの高温で莖立期が早まる中で、定期的に降雨があったことからほ場に入れず、追肥作業が行えなかったほ場では肥料分が不足して葉色の薄いほ場が見られる。また、排水不良ほ場などでは下位葉の黄化など湿害の兆候が見られる。

3月中旬以降、最高気温15℃以上の日が6日あった一方で、霜が降りるとされる最低気温4℃以下の日が9日、うち氷点下の日は2日あったことから大麦では凍霜害の発生が懸念される。

## 3 今後の生育予測

### (1) 気象予測

1か月予報（気象庁4月4日発表）では、向こう1か月の気温は高い見込みである。3か月予報（同3月19日発表）でも、気温は5月、6月とも高い見込みで、降水量はほぼ平年並の見込みである。

### (2) 生育予測

今後、気温は高めに推移すると予報されているため、出穂期、成熟期は前進すると考えられる。

生育の進んだほ場では、3月中下旬の低温の影響で凍霜害の発生が懸念される。

## 4 今後取るべき技術対策

### (1) 追肥

「さとのそら」では、莖立期までに追肥できなかったほ場では出穂2週間前に窒素成分で3～4kg/10aを目安に施用する。

また、肥切れにより葉色が低下しているほ場では、生育に合わせて窒素成分で1～2kg/10aを目安に施用する。

### (2) 排水対策

これまでに定期的な降雨があり、降水量も多いことから、根の機能が低下しているほ場も見られる。今後もまとまった降雨となることがあるので排水対策はしっかりと行う。気温が高くなる莖立期以降のまとまった降雨は、根の機能を低下させ湿害を助長する。麦踏み等で明きよが埋もれていないか、外部の排水路としっかり連結されているか等を確認し、不備があれば速やかに補修する。

### (3) 雑草防除

莖立期を過ぎると使用できる除草剤に限られるため、早めに雑草の種類と葉齢を確認し、処理適期を逃さないよう防除を行う。特に、カラスノエンドウ、

カラスムギなど、収穫物に種子が混入する恐れのある雑草は手取り除草を行う。

#### (4) 病虫害防除

赤かび病の防除は必ず実施する。特に、多雨や凍霜害の影響による不稔が赤かび病の発生を助長することがあるので注意する。

近年、気温の上昇に伴い莖立期～出穂期が早まり、耐寒性が低下した状態で低温に遭遇し、幼穂が被害にあう事例が見られる。被害の現れ方は、低温遭遇時の生育ステージによって異なり、幼穂凍死による不出穂、幼穂の部分凍死による奇形穂及び小穂の凍死や不稔などが発生し出穂後になって被害が確認されることが多い。

凍霜害により組織が壊死すると赤かび病菌が組織内に侵入しやすくなる。また、不稔になると受粉を促すように小穂の穎が開く時間が長くなり、赤かび病菌が侵入しやすくなる。この様にして凍霜害を受けると赤かび病の感染リスクが高まる。

防除適期は下表を目安にする。防除に際しては、隣接ほ場の麦種が異なる場合などは薬剤散布の収穫前日数を超過する恐れがあるのでドリフトに十分注意する。

平年の出穂時期は、11月播の小麦が4月中旬、大麦は3月末～4月上旬であり、12月播はこれより数日～10日程度遅くなる。

#### ※赤かび病防除の目安

小麦	<ul style="list-style-type: none"><li>出穂から7～10日後を目安に開花初めを確認し、直ちに薬剤を散布。</li><li>その後、降雨が継続した場合、開花10日後に追加の薬剤を散布。</li></ul>
ビール麦 (二条大麦)	<ul style="list-style-type: none"><li>穂揃期の10日後に薬剤散布。</li></ul>
六条大麦	<ul style="list-style-type: none"><li>穂揃期に薬剤を必ず散布。</li><li>その後、降雨が継続した場合、開花10日後に追加の薬剤を散布。</li></ul>

解析・考察に用いた具体的数字

1 3月の気象表（熊谷気象台日別測定値から集計）

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	6.5	6.9	12.6	12.5	0.8	2.0	27.0	10.4	39.4	32.6
2	5.8	7.4	10.9	13.1	1.5	2.5	10.5	10.7	36.3	33.2
3	8.5	8.1	14.1	13.9	2.5	3.0	13.0	9.3	43.9	34.0
4	10.1	8.9	16.7	14.7	4.7	3.7	0.0	9.1	39.8	33.6
5	7.4	9.6	12.4	15.3	2.8	4.5	2.0	11.0	32.2	32.6
6	12.9	10.4	19.4	16.2	7.4	5.3	78.0	16.0	38.1	39.3
平均	8.7	8.6	14.5	14.3	3.4	3.6	合計 130.5	69.0	229.7	203.2

注1. 半旬数値は熊谷気象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は気象台値。

2 生育状況

品 種 名	調査日	草 丈		茎 数		葉 位		風乾重		風乾歩合	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/株)	平年比 (%)	本年 (L)	平年差 (L)	本年 (g/100本)	平年比 (%)	本年 (%)	平年差 (%)
さとのそら	3月5日	25.5	135	12.4	136	8.6	1.5	110.2	204	15.9	-2.0
	3月15日	31.9	110	12.4	126	9.5	1.0	159.9	161	22.0	7.4
	3月25日	42.9	101	11.4	124	10.5	1.0	259.2	128	15.8	-0.2
彩の星	3月5日	36.3	147	15.6	121	8.4	1.1	214.5	203	13.9	0.1
	3月15日	45.0	104	14.7	107	9.4	0.5	322.0	138	14.7	2.9
	3月25日	58.1	91	12.8	107	10.2	0.4	463.0	115	15.3	2.0

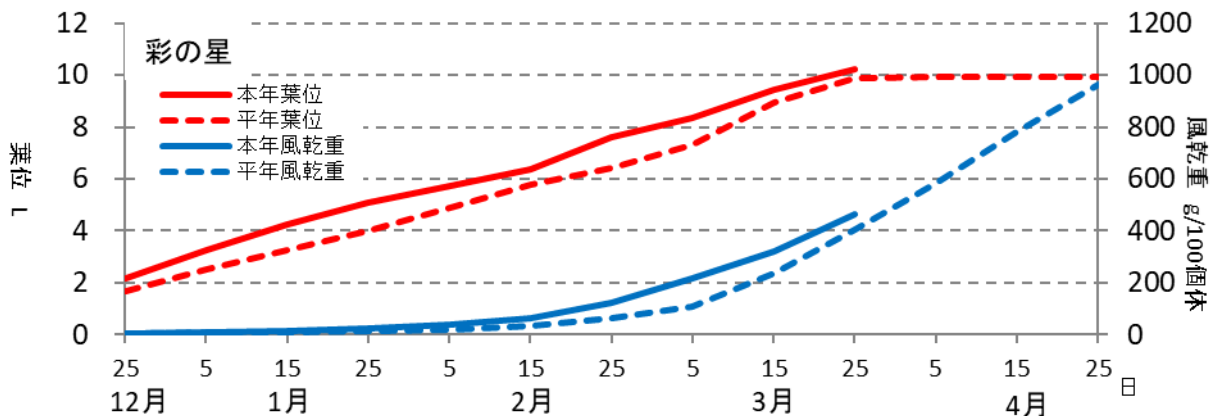
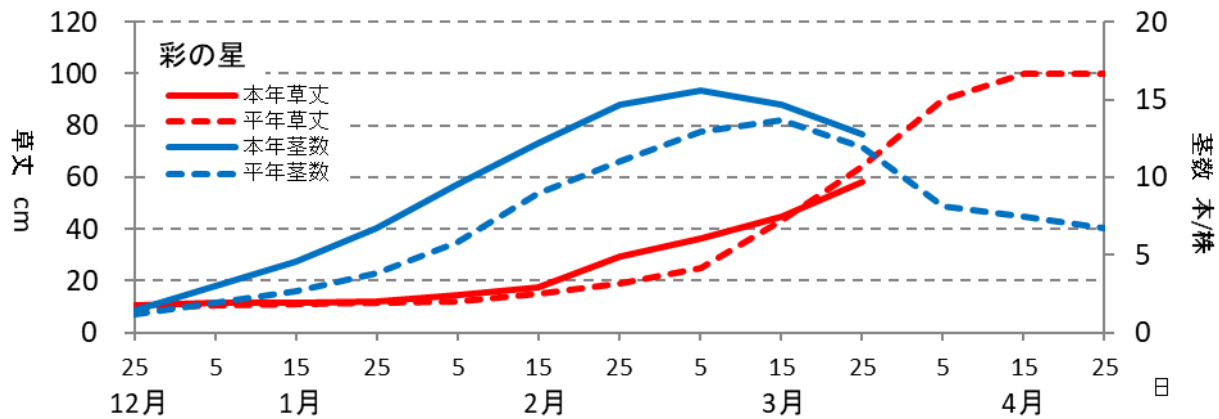
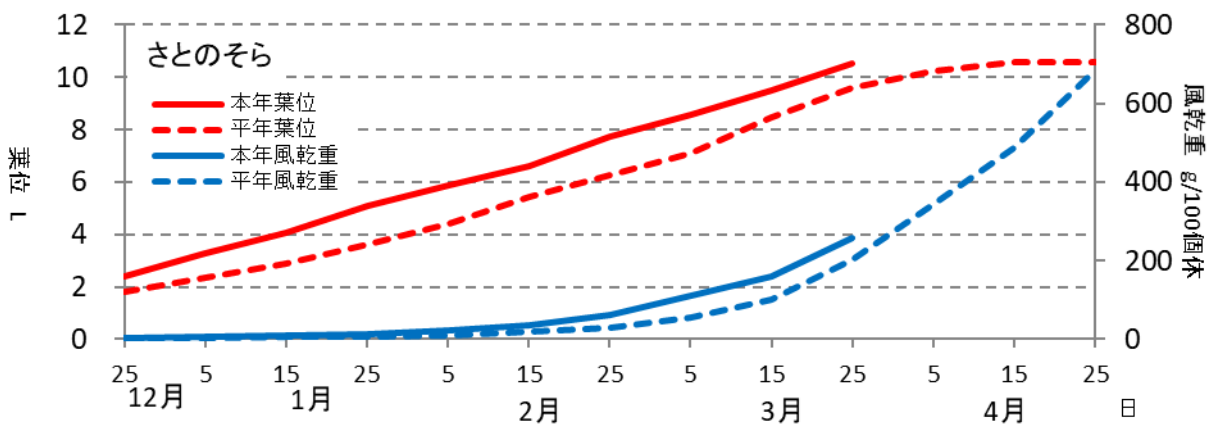
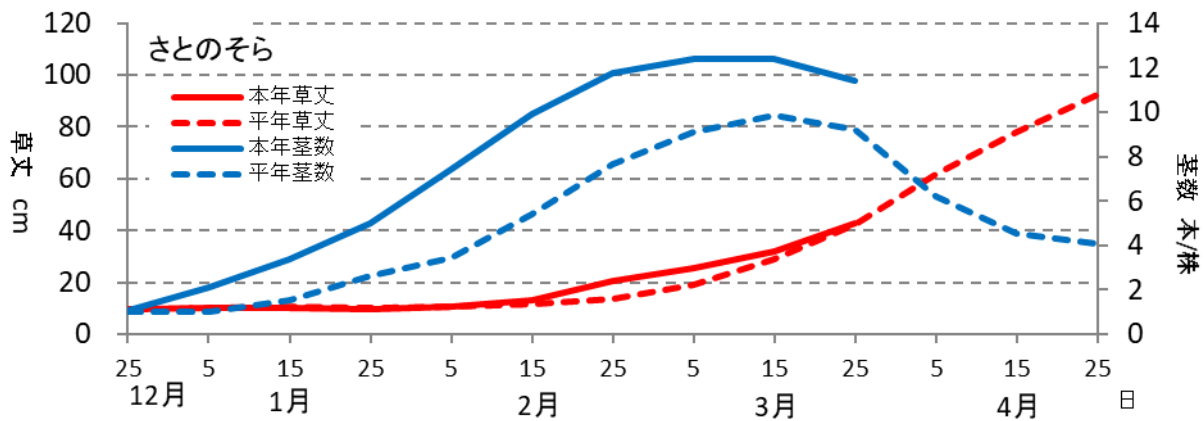
注1. 平年値は、さとのそら、彩の星とも暖冬であった令和2～4年播種の3か年平均。以下同様。

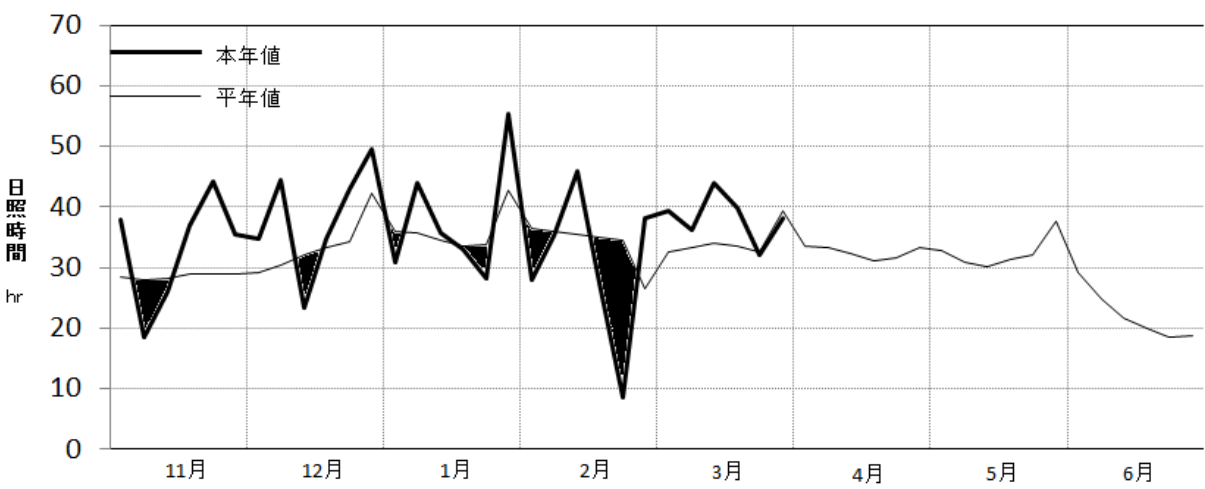
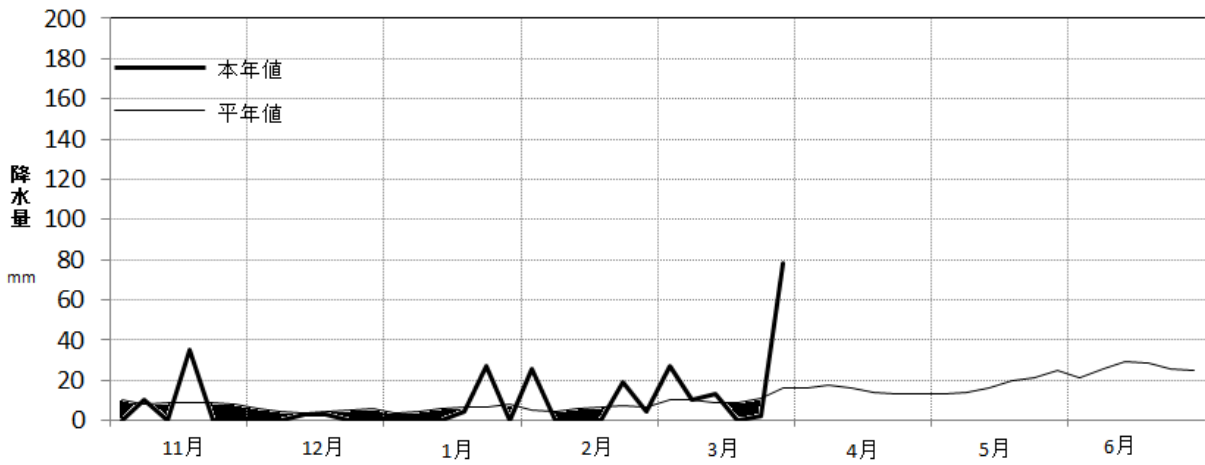
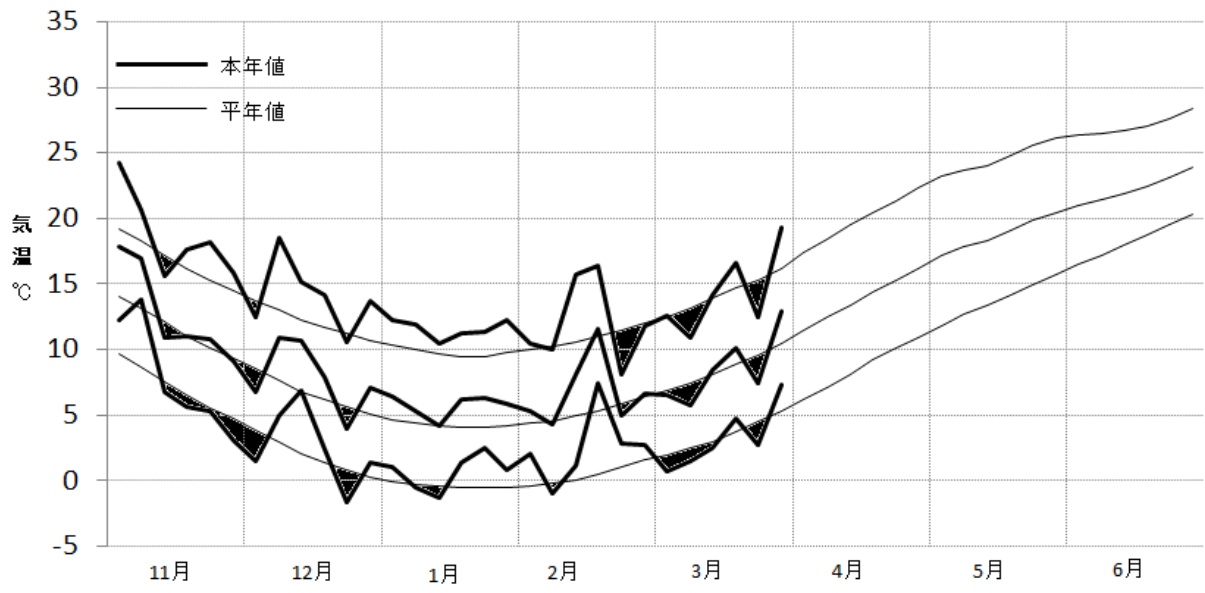
注2. 風乾重は100個体当たりグラム。風乾歩合は風乾重/生体重。

3 茎立期および出穂

品 種 名	茎立期			出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
さとのそら	3/14	3/14	0	-	4/7	-	-	4/10	-	-	4/12	-
彩の星	2/29	3/6	-6	3/31	3/26	5	-	3/31	-	-	4/2	-

4 生育経過（11月24日播種）





令和5年播(6年産)冬作期間気象図  
(熊谷地方気象台日別データより作成)